

北陸石仏の会々報

第 23 号
平成13年 4 月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三―三二―二七七二
振替 〇〇七四〇―二―一九七四

大山町石淵の大福大明神

平井 一雄

十一月十二日北陸石仏の会例会で案内した。石淵の水神社に竜を頭上に戴く水天と並んで左側に、狐を左右に侍らした大福大明神という文字を縦書きした石像があつた。

狐を使いとする神様は一般にお稻荷さまであり、狐を乗り物とする神は、茶枳尼天(ダキニテン)、飯綱権現、秋葉大明神がある。

昭和五十八年に石淵を探訪して、ちょうど畑仕事をしておられた花木とみえさんにお聞きしたところ、この石像は中尾本家にあつた屋敷神でお稻荷さまであるといわれた。

その当時は、水天も稻荷もそれぞれ別の祠堂に祀られており、花木さんはこの神様は仲が悪いから別々にお奉りしてある。中尾さん宅が離村されたので、このようにしてあると云われた。その後、新しい道とトンネルが作られた時、水神社も新築され、両神様も祠堂から出られ、このように仲良く並んで村人から信仰されているのである。

ところで、先に『北陸石仏の会研究紀要2号』に発表した「片

貝川黒川橋詰の七福神石塔」の資料 喜田貞吉編『福神』に福大明神の記載があつたので注に要約して記す。

これにより石淵の大福大明神は福大明神に尊称の大をつけ、大福大明神として稻荷大明神の御神体としたものだということがわかる。ちなみに世間のお稻荷さまはほとんどが祠堂に収まつて我々には見えない神様であるが、富山県内では、稲束を荷つた文字通りの稻荷神の石像を砺波市と大山町亀谷で拝むことができる。稲を荷つた稻荷神は弘法大師が高野山を開くとき姿を現した地主神(高野明神)であるとされている。



◇注：喜田貞吉編『福神』一九七六・五発行より
一、宇賀神考

◇古え福神を宇賀の神といったことがある。

◇鎌倉時代の著なる『塵袋』に、「福の神を宇賀と申す如何」と題して、神代紀の保食神（うけもちのかみ）の故事や『丹後風土記』の奈良の杜にます豊宇賀能荒神（とようがのかみ）の俗伝を引用し、その福神たる所以を説明してある。

◇貞享の『雍州府志』にも茶枳尼天を祭った福大明神杜の事を、祭る所は宇賀神なり。故に福大明神と称す。

二、宇賀神と狐神

◇宇賀神が蛇神と付会せられている一方には、また狐神と付会せられて稲荷神と関連し、俗間に一種の信仰を博している。

◇倉稲魂命、保食神等諸手賀神が、御念津神（みけつがみ）として祭られたことによりこれを三狐神（みけつがみ）に付会しついに狐神の名を得たものであろう。

◇『山州名跡志』本国寺の条には、

福大明神の社は、観智院に在りと。云々。寺の記に云はく、云々。後世誤りて祭る所は稲荷大明神或は弁財天と云ひ、波の影を天神と称す。

溪流に色葉散り込み水地蔵

鉾山^{やま}廃れ一戸残れる水の秋

地蔵田てふ百歩の田を守り冬に入る

残菊や摩利支天彫る力士の碑

庚申塚の由来聞きをり空也の忌

朴落葉これより径は神の山

山田玉枝

第23回例会報告

前田 起佐子

晩秋の空模様を気にしながら早朝富山へと向かう。

北陸石仏の会に参加させて戴き何となく楽しい。富山駅迄迎えに来て下さって有難うございます。九時三〇分のバスに乗り、富山の街並や田園風景を眺める内に大沢野方面へ。

先づ目前に飛び込んで来るのが白雪乃立山連峰、剣岳の雄姿。九月に雄山、富士の折立、大汝、別山を縦走し寒く辛かった事が思い出される。大山町日尾の集落で下車する。係員の前田様が庚申塚碑を案内して下さる。田の中にあつたこの事で珍しい。

街道の横に立て直したら子供の病気が治つたという。その近くの六地藏尊に参拝。六体の地藏尊が並び、維持費の為一〇〇歩の田があると聞いて面白く不思議な事。三十三観音は雑草に覆われた細い路傍の道の辻に安置され何だか寂しそう。万泉寺へ道の分岐点、石淵バス停横に耳地藏のお堂があり見学参拝する。子供の耳垂れが治つたとの事、遠方から参拝に来るとの事。

この処臭い匂いがあるとえば大銀杏の実が落ち踏んで歩いている為か。でも黄葉に彩られた葉が舞い落ちる様は静寂な山合に何とも言えぬ心が和む。石淵の水天、本尊の頭に竜、手に宝剣をもち凛として気品があり、珍しい水神様。その左に稲荷大明神。これ又貴重な狐と頭に竜猿、月と太陽の彫刻。境内の梵鐘、小さいが叩けばゴーンと何とも言えぬ余韻を響かせ、名利古刹の寺を思わせる。民族、文化が伝承され、人情味の豊かさひしひしと感じられる。

ひなびた溪谷やせせらぎを眺め、案内板に左は小坂、千長原、桧峠へ真直ぐに峠を越えて行けば神岡鉾山へ行けるそう。

越中、美濃との国境で街道の要衝で、昔は歩いて往き来した事でしょう。

黒川橋を渡れば上馬瀬村となる。巨岩の自然石に刻まれた(黒い石)磨崖佛。雨乞を祈った。昔は川淵に道があり鉾石を運んだと説明される。かつて地蔵も始めて聞く。面白い。

昼食は前田様の静かな別荘の佇い庭にススキが揺れ、赤いさざんかが咲いている清流を眺め、紅葉の山々を眺望しながら明るい座敷で皆と語り合いながらの食事が楽しかった。

バスにて大川寺公園三差路に左立山道標、常願寺川(荒れ川)、巨大な石に相撲力士の碑があり驚く。上に摩利支天、その横に十一面観音等。大川寺三十三観音、長い参道の左右に三体の道祖神碑、八十八ヶ所石仏が並び鎮座されてる役の行者像、疫神社像はコレラが大流行した明治初年に庚申塚を建立との事。貴重で珍しい。馬頭観音も拝見出来てとても良かった。

有峰湖は薬師岳登山で通過しましたが、話に依れば昭和初期迄あの山奥に村があり廃村でこの方面にも住んでいると話される。

富山とは立山、巨大な河があり、薬売り、村の入口に守護の道祖神等あり厳しく優しい風土、風景、人情味の豊かさ、民族文化の伝承が息づいている。

峠道、路傍の草むらに微笑をたたえた地蔵菩薩、野佛が多いのも素朴な信仰に生きる人々で不思議な所と感じました。

今日は天候に恵まれ、紅葉の山並を望み、清流のせせらぎを聞き、皆様と石仏探訪出来た事が有難く、とても有意義な一日でした。

役員の皆様有難うございました。

北陸石仏の会例会第23回

富山県大山町

日尾・石淵・馬瀬の石仏探訪参加者

富山県

南 金三

前田英雄

村上光子

尾田武雄

岡田静子

加藤永子

小竹一夫

柳沢栄司

平井一雄

平野重二

西村多恵子

島倉千春

斎藤善夫

石川県

山田玉枝

上田信子

滝本靖士

南外志雄

福井県

北村市朗

北野正明

北野奥さん

前田起佐子



〈石仏紹介〉 11

【題目 交通安全地蔵】

柳沢 栄 司

地蔵信仰は、民間信仰と溶け合って現世利益的となり、長寿、安産、育児、豊作等々の切実な庶民の願望を分担して、効験をあらわす地蔵が生まれ、延命地蔵、子安地蔵、田植地蔵など多種多様な名称で呼ばれて流行神化した。……(日本石仏協会編・日本石仏図典)

近年は交通事故の現場に供養仏として、建立される地蔵が多くなった。日蓮宗では題目塔の建立が多く、石仏を造立する例は殆ど無いと思われるが、交通事故も激増し、日蓮宗信徒としても無視し難くなり、交通安全地蔵を建立したものであろうか。

岐阜県多治見市・虎溪山永保寺の駐車場で



北陸石仏の第24回例会案内

今回は福井県の旧市内を中心に、石仏ほかを研修していただきたい。

特に福井県の石造品の大部分がこの石で製作されている、笏谷石の原産地である足羽山が拠点である。

月 日 平成十三年五月二十七日(日) 雨天決行

時 間 集合 午前十時十分(福井駅東口)

解散 午後三時十分(福井駅前)

集 合 午前七時三十分(JR富山駅北) 午前八時十分(JR砺波駅南)

午前九時(JR金沢駅西口)

参加費 五、〇〇〇円(バス代含む) 六、〇〇〇円(富山・石川県)

参加連絡先 平成十三年五月二十二日まで、ハガキにて

事務局 尾田武雄方 北陸石仏の会

〒九三九一三三五 砺波市太田一七七〇

TEL・FAX 〇七六三一三二一二七二二

◎見学予定について

一、西木田 不動尊磨崖仏と十二支の石仏

二、江守中町 熊野神社 石造品多数 弁財天

三、種池 町の内 月輪

四、足羽山巡り 神社や寺の石造品 特に巨大な天皇像

五、深谷 磨崖仏 他

以上は予定にして、天候や時間により変更することがありますので御承知願います。

◎列車の場合

行き 富山発 8時35分 福井着 9時53分

小浜発 7時44分 福井着 9時58分

帰り 福井発 16時19分 富山着 18時34分

福井発 16時13分 小浜着 18時36分

敦賀・小浜間はバス運転と時刻表に出ています。